

海洋生産管理学科

Department of Fishery Science and Technology

海という広大な三次元空間を

グローバルな視点で解き明かす実践科学

海洋生産管理学科では、海洋環境—水産資源—生産管理に関わる分野を科学的手法によって解明し、海の生態系を維持しながら、船舶の最新技術を駆使して水産資源を持続的、計画的に利用するための教育と研究を行っています。学科の教育組織は**海洋生産運航学講座**、**資源管理学講座**の2講座で編成されており、両講座の連携により、21世紀の新しい水産業を展開するために必要な基礎的な学理をはじめ、幅広い理論と応用技術に関する教育と研究を行っています。

海の生態系を維持し、船舶の最新技術を駆使しながら、水産資源の持続的、計画的利用に向けた教育・研究

海洋生産運航学講座

海洋での生産活動の効率化、高度化に向けた船舶運航、漁獲技術、情報管理に必要な教育・研究

資源管理学講座

海洋での生態系を維持しながら効率的な漁業生産と水産資源の持続的、科学的利用に向けた教育・研究

卒業後の進路

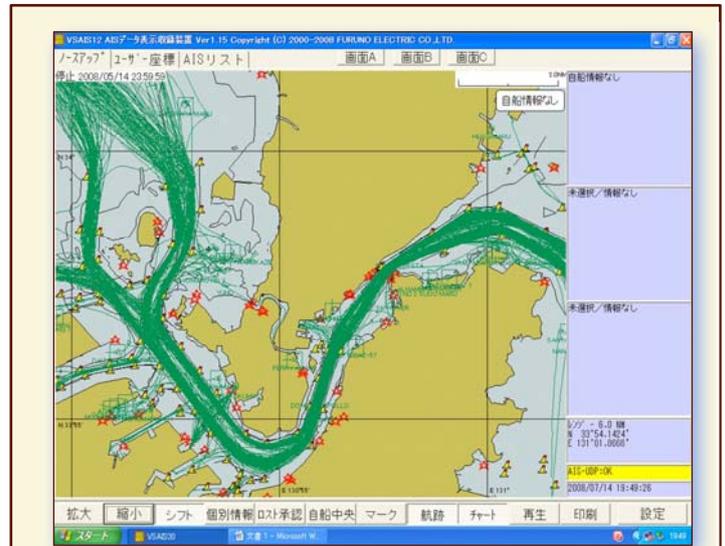
国家公務員	水産庁, 国土交通省	* 青字は本科を卒業後専攻科へ進学した場合の就職先です
地方公務員	北海道, 福岡県, 堺市, 青森市, 海津町, 山形県, 福島県, 京都府, 三重県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 山口県, 高知県, 佐賀県, 大分県	
各種団体	全国共済水産業協同組合連合会, 農林水産消費安全技術センター, 兵庫県漁業協同組合連合会, 福井県漁業協同組合連合会, 香川県漁業協同組合連合会, 日本遠洋旋網漁業協同組合, 山口県漁業協同組合, 日本海事検定協会, 新日本検定協会, 日本小型船舶検査機構, 水産大学校, 広島大学, 三重大学, 水産研究・教育機構, 全漁連(全国漁業組合連合会)	
水産関連団体	日本水産, マルハニチロ, 日本かつお・まぐろ漁業協同, ニチレイ, ニチモウ, 西日本ニチモウ, 日東製網, 菊谷茂吉商店, ホクモウ, 古野電気, 日本無線, 光電製作所, 東洋信号通信社, ゼニライトブイ, 横浜冷凍, 大水, 大東魚類, 名古屋海産市場, 大京魚類, 福岡中央魚市場, 仙都魚類, 水研, 魚力, うおいち, 鯉平, フィードワン, SNC, タカミヤ, 海洋先端技術研究所, 白地水産, 金子産業, シモセン, 常洋水産, 中央魚類, 茨城水産, 日本郵船, 商船三井, 川崎汽船, 日本海洋事業, 大洋エーアンドエフ, 共同船舶, 阪九フェリー, 九州郵船, 太平洋フェリー, 新日本海フェリー, 津軽海峡フェリー	
その他の企業	神戸海事検定, 飯野海運, NSユナイテッド海運, ケイラインローローバルクシップマネジメント, 出光タンカー, ENEOSオーシャン, 鹿児島船舶	
進学	本校の専攻科, 水産学研究科, 北海道大学, 東京大学, 東京海洋大学, 名古屋大学, 福井県立大学, 京都大学, 大阪市立大学, 神戸大学, 愛媛大学, 九州大学, 長崎大学, 鹿児島大学, 琉球大学の大学院	

Fisheries and Nautical Sciences

漁船の航海に関する分野

(鎌野忠 教授, 秦一浩 教授, 酒出昌寿 准教授)

私達は、漁船や海洋調査船などの安全航行を目指した研究に取り組んでいます。現在、海上での漁船同士または漁船と大型貨物船などの衝突事故は後を絶たず、尊い人命と豊かな海洋環境の損失を招いています。このような衝突事故をなくすため、漁船の海上交通安全の維持やその向上に向けた研究を行っています。



AIS(船舶自動識別装置)の航跡を利用した、多数の漁船が操業する関門海峡での船舶交通の実態分析

漁船の運用に関する分野

(下川伸也 教授, 川崎潤二 教授, 酒井健一 講師)

漁船は漁業者にとって、かけがえのない財産です。そして、漁船で漁業に従事する人の安全確保は、今後の日本の漁業を考える上で、何よりも優先させる課題です。私たちは漁船の安全性や効率性といった漁船の性能、漁船での海難防止や労働環境改善に関する技術について研究しています。



漁労漁労作業の3次元動画分析による安全性・作業性向上に向けた研究作業の3次元動画分析による安全性・作業性向上に向けた研究

資源管理学講座

Marine Resources Management

資源管理に関する分野 (若林敏江 教授, 矢野寿和 助教)

水産資源として利用する魚やイカなどは、過度の漁獲によって枯渇する恐れがある一方、適切な漁獲によって資源を管理することで持続的に利用できます。魚の生態や資源状態を調べ、効果的な水産資源の管理方法を探す研究を進めています。



魚群探索・計測に関する分野

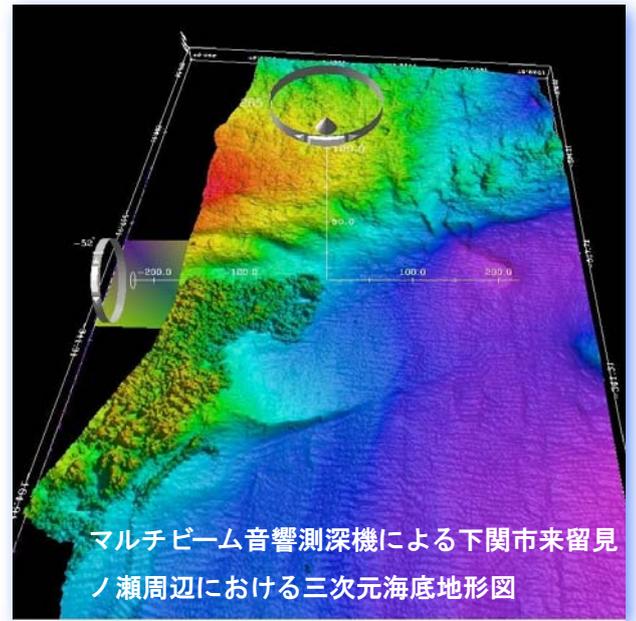
(松本浩文 准教授, 中村武史 講師, 嶋田陽一 助教)



計量魚群探知機による魚群行動観測

海の中は深い所まで光が届かず、ひとたび海洋生物を観測しようと思っても、陸上の生物を観測するのと違い思うようにはいきません。私たちの研究分野では、人間の目に代わる超音波

を利用した音響計測機器やコンピュータによる画像解析技術を用いて、海洋生物の分布や生息場を把握する研究・開発を行っています。



マルチビーム音響測深機による下関市来留見ノ瀬周辺における三次元海底地形図

漁場環境に関する分野

(柏野祐二 教授)

近年、地球温暖化など地球規模での環境変動が問題になっています。私たちは漁場環境変動の解明のため、人工衛星データや現場観測データを用い、海況変動と海洋生態系に関する研究を行っています。

漁業情報・漁法に関する分野

(毛利雅彦 教授)

水産資源を食糧として利用するために必要な「漁業情報・漁法」を扱う分野です。人々が水産生物を獲るには技術だけでなく、水温、溶存酸素量など漁獲対象の生物を取りまく海洋環境に関する知識が必要です。獲りさえすればいいという時代は終わり、環境を保全しながら水産生物を持続的に利用できる獲り方をしなければなりません。私たちは漁業情報からみた【これからの漁業】＝【省エネルギー、計画的・合理的な漁獲の方法】を目指し、水産生物の幼魚の情報などを把握すると共に、漁獲に影響する様々な要因の解明に取り組んでいます。

漁具に関する分野

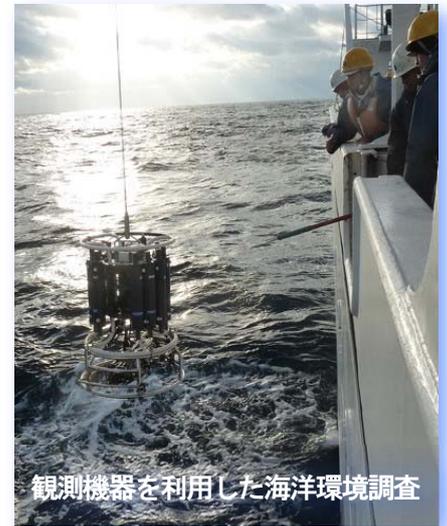
(永松公明 教授, 梶川和武 准教授)

私たちは時代の要求に対応した新しい漁具の研究開発を行っています。

『従来の漁具』は・・・魚介類を効率的に捕獲する道具
『時代の要求に対応した漁具』とは、

資源管理型漁業への対応⇒資源にやさしい漁具の開発研究
(魚種やサイズを選択・分離して漁獲できる)

栽培漁業への対応⇒増・養殖施設や魚礁の開発研究



観測機器を利用した海洋環境調査



日本海におけるまぐろ類(クロマグロとコシナガ)の幼魚



回流水槽での漁具力学実験